

## 視覚に障害のある子どもの手の洗い方

視覚に障害のある子どもの保護者の皆様と周囲の方へ向けて、視覚に障害のある子どもに対して手を洗うことを指導する際の、指導方法と、注意すべきポイントをまとめました。手を洗うことが大切であることを伝えていただき、手を洗うことを習慣づけられるよう指導をしてください。

### 1、手を洗う動作を指導する

- 1) 動作を視覚的に模倣することが難しいので、幼児期の指導としては手洗いの方法について大人が子どもの後ろに立って、子どもの手を取って教えましょう。右の写真のように、大人の手を子どもに取らせて、大人が手を洗う動作を教えるという方法もあります。伝わりやすい方法で指導しましょう。



- 2) 手洗い動作を指導する時には、「掌をこすり合わせて」とか「指の間を」等、動作に対応させて丁寧に言葉を添えることが有効です。「ごしごし」等の擬音語を添えることも有効です。
- 3) ある程度年齢が進めば、言葉の指示だけで十分な場合もあります。
- 4) 洗い残したところがないかを視覚的に確認することが難しいので、動作を丁寧にを行うよう指導して、手全体をきれいに洗うようにすることが大切です。石けんが残っていないか等、触って確認することも必要です。

### 2、注意すべきポイント

- 1) 石鹸、石鹸液やアルコール消毒液のポンプ等の位置は固定しておくようにしましょう。また、手洗い石鹸やアルコール消毒液の容器の形状が似通っている場合には、触って区別ができるような凸型のシールや手がかりになる印等を付すのも良いでしょう。
- 2) 手洗いの指導をする前には、大人自身がまず手の消毒をしましょう。また、マスクを着用することにより、飛沫感染を極力抑えましょう。



### 3、子どもに合わせて指導

視覚障害といっても様々です。子どもの視力や視野等の状態に合わせて指導をしてください。